

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	○話し言葉と書き言葉の違いを理解すること、必要なことを質問し、知りたかったことの説明を選択することは、よくできている。 ○長文読解問題で、題意を正しく捉えることや文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の考えをまとめることに課題がある。
算数	○示された問題を理解し、除法か乗法かの判断をして、計算することができ、モデル文に沿って、記述することができたり、表の意味を理解し、グラフを選択し、必要な情報を読みとり、必要なデータの収集、活用をしたりすることができる。 ○百分率等で表された割合を分数で表すことに課題がある。
理科	○理科学習の領域区分の中で、「生命」を柱とする領域は、全国平均を上回っている。また、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に自分の考えをもち、内容を記述することができている。 ○「エネルギー」を柱とする領域区分の問題において、まとめからその根拠を実験結果を基にして考察して書くことに課題がある。

## 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が好きな割合は、平均を大きく上回っている。図書室に行く回数や、隙間時間での読書の時間が、増えているためと考える。</li> <li>・理科学習が、好きで、大切と思っている児童が、平均を上回っている。理科の授業で学習したことは、将来役に立つと考える割合が高い。</li> <li>・学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと考えている児童が多い。しかし、実際には、授業中に十分活用できていないので、ICT機器を使用する回数が増える学習に取り組ませていきたい。</li> <li>・人の役に立ちたいと考えている児童は、100%で、社会をよくすることに貢献したいと考えているが、地域行事に積極的に参加する児童は少ない。コロナ禍で、地域行事がかなり減っていることも一因と考える。</li> <li>・スマートフォン等での動画視聴時間が、2～3時間以上の児童が増えたり、家庭でのルールが、特になという児童も多くいたりする。</li> <li>・家庭学習に対して、主体的に計画を立てて、勉強をしている割合が平均を下回っている。</li> </ul>

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

## ① 教科に関する取組

- ・主題研究を基にして、児童がより主体的に学習に取り組むよう、授業において、課題・めあて⇒結果予想・見通し⇒実験・観察⇒考察⇒まとめという基本的な授業の流れを意識した授業改善に取り組む。
- ・どの教科も資料や事実を基にして考えたり、意見を交換したりして児童が自分の考えをより確かなものにする学習を重点的に行う。
- ・朝の学習時間や補充学習時には、一人一台端末を活用し、児童が進んで学習に取り組めるようにする。また、学習中でもICT機器の活用の充実を工夫することで、個別最適な学び、主体的な学びを目指していく。

## ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・児童が規則正しい生活を送ることができるよう、これまでの「藤松小生活がんばりカード」の取組を長期休暇の後に実施し、生活習慣の見直し、立て直しを図る。
- ・家庭学習については、学校だよりや学級通信等を使い、家庭との連携を図る。一人一冊「自学ノート」を活用し、自主的に家庭学習に取り組む為の工夫をする。
- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家庭に協力をお願いし、規範意識を育てるような啓発を行うようにする。